

令和6年度事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構

[基本方針]

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（以下「機構」という。）の役割と使命は、全国の医学部および歯学部における医・歯学生の態度・技能・知識の修得状況を評価し、医療人としての適性と能力を全国的に一定水準に確保することにある。

このために、医学・歯学のそれぞれの専門領域ごとに会員大学間で共通の試験を実施するとともに、評価基準の適正化と成績の向上を目指すことにより、広く医療関係者と社会・国民の理解を得ながら、優れた医療人の育成に貢献しようとするものである。

この基本方針を達成するため、下記事業を実施した。

[主な事業]

1. 共用試験実施事業

(1) 法に基づく共用試験実施機関として、医学生および歯学生を対象に臨床実習前共用試験を適正かつ確実に実施した。

(2) CBT関連事業

① 令和5年度までに新たに追加、蓄積されたプール問題を用いて、ランダム出題方式により試験を実施した。実施にあたっては、十分な事前説明を行い、本法人から委嘱された監督者を派遣し、適正な試験の実施を確認した。

② 受験学生の試験成績を返却するとともに、全体成績及び分析結果を公表した。試験問題と試験成績は本法人において厳重に管理し、詳細な統計分析を行った。

③ プール問題の蓄積と入替えのために会員大学に新規問題作成を依頼するとともに、本法人においても新規問題の作成を行った。作成・提出された新規問題を本法人から委嘱された委員でブラッシュアップ作業を行った。

また、試験終了後に各試験問題を評価し、優れた問題の継続的な蓄積を行った。

(3) 医学生臨床実習前・後OSCE及び歯学生臨床実習前OSCE・臨床実習後PX関連事業

① 評価項目・評価表・評価基準等の標準化の検討及び改善を進めた。試験の実施にあたっては、本法人から委嘱された監督者及び外部評価者を派遣し、適正な実施を確認するとともに実施体制の改善を指導した。

また、実施日程や機構派遣監督者・外部評価者・標準模擬患者の調整等、実施に関する会員間の協力を支援した。

② 試験実施後提出された試験成績を基に全体の成績と統計処理結果を公表した。

2. 調査研究・開発事業

(1) 調査研究事業

- ① 医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの到達目標と共用試験内容の整合性について検討した。
また、モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴うCBT，医学生OSCE及び歯学生OSCE・PXへの対応について検討した。
- ② CBT試験問題の形式と内容，医学生OSCE及び歯学生OSCE・PXについて，それぞれの課題と評価方法等の改善のための調査・研究を行った。
- ③ 公的化に伴う試験の精度を検証するため，公的化前後の状況を比較する調査を行った。
- ④ 医学系では「CBT問題作成指針」作成の作業を開始した。

(2) 開発事業

- ① CBT，医学生OSCE及び歯学生OSCE・PX等の関連プログラム，ソフトウェアについて各大学の試験結果の集計等に係る人的及び経済的負担の軽減を目指した改善・開発を実施した。
- ② CBT実施用サーバー及び端末等の状況に応じて，必要なソフトウェアの継続的な改善・開発を実施した。
- ③ 将来にわたって共用試験を安全かつ簡便に実施し，成績の管理・返却を迅速に行うための次世代システム開発のための調査研究やシステム全体の見直し・整理を行った。

3. 研修・出版・広報活動事業

(1) 研修事業

- ① CBTを安定的に実施していくためには，常時3～4万題の良質な試験問題のプールとその継続的な入替えが必要である。このため，教員の問題作成能力向上を目指して会員大学で開催される問題作成講習会等を引続き支援した。
- ② CBT，医学生臨床実習前・後OSCE及び歯学生臨床実習前OSCE・臨床実習後PX（CPX・CSX）の公正公平な評価を行うには，機構派遣監督者，認定評価者及び認定標準模擬患者の養成が不可欠であり，このための認定講習会等を継続的に開催した。
- ③ 共用試験の円滑な実施のための教職員を対象とした全国説明会等を継続的に開催した。

(2) 出版・広報活動事業

- ① 共用試験の導入に至った経緯，意義，経過等を含めた，「共用試験ガイドブック」の改訂版及びパンフレット等をホームページに掲載し，受験対象学生，教職員，医療関連機関，一般社会等へ広く公開した。
- ② ホームページやニュースレター等を通じて，法人としての研究資料収集や事業活動の情報公開・提供の促進を行い，会員大学とのコミュニケーションを図った。

4. 法人組織・活動の基盤強化を図る事業展開

(1) 法人としての組織・活動の基盤強化を図るため、理事会の下部機関として以下の委員会を設置し、理事会を核とした活動を推進した。

- ① 将来計画企画調整委員会
 - i 医学生共用試験CBT推進会議
 - ii 医学生共用試験OSCE推進会議
 - iii 医学生共用試験調整会議
 - iv 歯学生共用試験推進・調整会議
- ② 信頼性妥当性検討委員会
- ③ 広報・国際連携推進委員会
- ④ 制度・システム開発委員会
- ⑤ 研究倫理委員会

(2) 法人としての組織・活動の基盤強化を図るため、事務所移転の検討を継続した。

5. その他（財務改善等への取組）

(1) 令和4年度及び令和5年度において発生した多額の損失を踏まえ、財務改善計画を策定し、以下の財務改善等に向けた取組を進めた。

- ① 財務担当理事による定期的な財務状況の点検
- ② 委員会（試験問題関係の会議を除く。）のWeb化による旅費の削減
- ③ 各種講習会場を大学その他公共施設借用による賃借料の削減
- ④ 「共用試験ガイドブック」のHP化による印刷費の削減
- ⑤ システム開発の見直し・整理（将来増加することが見込まれていた経費を可能な限り抑制するため、CBTとOSCE、医学と歯学並びにPreとPostの連携に加え、特にOSCEにおいては、試験の実施前後で用いられているシステム間の連携を深めるなど開発計画の見直しを進めた。）
- ⑥ OSCEに係る業務の見直し
- ⑦ 関係省庁への財政支援の要望
- ⑧ 共用試験事業に対する国民や社会の理解を得ること等を目的とした賛助会員制度の創設

(2) ガバナンス改革として、以下の取組を進めた。

- ① 役員候補者選考規程を制定し、選考委員会を設置して候補者を選考することや候補者は再任期間が連続5期（10年）を超えないこと等を定め、選考手続きの透明化と選考基準の明確化を図った。
- ② 厚生労働省及び文部科学省の両省と毎月1回連絡会を開催し、機構の財務状況や共用試験の現状に係る課題を共有した。また、医学系・歯学系関係団体の会議において共用試験の現状を説明し、機構の事業に対する理解を求めた。

令和6年度 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構総会等の開催状況

年 月 日	会 議 名	議 題
令和6年5月27日	第31回定例理事会	1. 理事候補者について 2. 監事候補者について 3. 令和5年度事業報告（案）について 4. 令和5年度収支決算（案）について 5. システム整備積立資産の取り崩し（案）について 6. 会費の値上げ（案）について 7. 委員会規程の一部改正（案）について 8. 令和5年度活動報告年報（案）について 9. 第11回定時総会審議事項等（案）について 10. ハラスメント防止規程（案）の制定について
令和6年6月28日	第11回定時総会	1. 理事20名の選任について 2. 監事1名の選任について 3. 令和5年度収支決算（案）について 4. 会費の値上げ（案）について
令和6年6月28日	第9回臨時理事会	1. 理事長及び副理事長の選定について
令和6年11月25日	第32回定例理事会	1. 役員候補者選考規程（案）の制定について 2. 寄附金取扱規程（案）の制定について 3. 賛助会員規程（案）の制定について
令和7年2月28日	第33回定例理事会	1. 令和6年度補正予算（案）について 2. 令和7年度事業計画（案）について 3. 令和7年度収支予算（案）について 4. 第13回臨時総会審議事項等（案）について 5. 就業規則の一部改正（案）について
令和7年3月24日	第13回臨時総会	1. 令和6年度補正予算（案）について 2. 令和7年度事業計画（案）について 3. 令和7年度収支予算（案）について